

直撃INTERVIEW!!

県内の高校唯一の福祉科で学ぶ！
現役高校生

高等学校編

家族の影響や周りからの勧めで、高校から福祉を学ぶ先輩たち。卒業後、福祉施設への就職が決まっている3年生2人に、授業で学んだことや現在の心境についてインタビューしました。



|| 奈良県立榛生昇陽高等学校 ||
県内の高等学校で唯一の福祉科を設置。卒業と同時に介護福祉士国家試験の受験資格を取得することができ、試験の合格率は90%以上を誇ります。

奈良県宇陀市榛原下井足210
TEL.0745-82-0525 FAX.0745-82-7606
HP. <http://www.nps.ed.jp/sshs>

利用者さんとのコミュニケーションが とても大切だと学びました。

—— なぜ福祉の道を選ぼうと思いましたか？

橋本 中2の時に祖父が自宅で倒れて、家族で在宅介護をするようになったことが、福祉の勉強をしようと思ったきっかけです。当時は何も手伝うことができませんでしたが、今では、学校で習ったことを祖父の介護でも実践しています。

飯田 私の祖母はヘルパーをしていて、小さい頃から介護の仕事についていると聞かされていました。「感謝の言葉をかけてもらえて、とてもやりがいのある仕事だよ」と祖母が言っていたので、私もやってみようと思いました。

—— 授業ではどんなことを学びましたか？

飯田 福祉現場のコミュニケーションについて学ぶ授業では、介助する時は「声かけ」がとても大切だと教えてもらいました。対話を通じて利用者さんの

考えていることや気持ちをできる限り理解できるように、普段からしっかりと人の話を聞くように意識しています。

橋本 この学校は実習が充実していて、その時もコミュニケーションのことを細かく教えてもらえます。声をかけずにいきなり介助すると、怖く感じたり不安を与えることがあると教わったので、介助する時は声かけを忘れないように気を付けていきたいです。

—— 入学してから福祉に抱くイメージは変化しましたか？

飯田 私は利用者さんの身の回りのお世話は、すべて私たち(介護者)がするものと思っていました。でも現場では、できないことをお手伝いする自立支援のために介助が行われています。自分のできることは自分でされていて、とても驚きました。

橋本 実習に行くまでは、もっと元気がなくて暗いイメージを持っていました。でも、意外と明るい方が多くて驚き

予想していたよりも 明るい福祉の現場に驚きました。

ました。お話をするのが好きな方や歌の好きな方、体を動かすことが好きで、普通の人と変わらないぐらい元気な方もいらっしゃいました。

—— 2人は福祉施設への就職が決まっているんですね。どのように仕事へ取り組んでいきたいですか？

橋本 「習ってきた知識が現場で通用するだろうか」「周りの足を引っ張ってしまうのでは」など、自分が働くことを想像すると、不安なことばかり頭を浮かべられます。でも、この仕事で頑張ると決めたので、わからないことは周りの先輩たちに聞きながら、前向きに取り組んでいきたいです。

飯田 4月から働く福祉施設には、すでに実習で訪問したことがあります。利用者さんとスタッフの仲がすごく良く、お互いの信頼感が伝わってきました。私も利用者さんと親しくなって、何でも気軽に言ってもらえるような介護者になり

たいです。

—— 今後の目標と将来の夢を聞かせてください。

飯田 来年1月に介護福祉士の国家試験があります。1年に1度しかない試験なので、ぜひ合格したいです。その後、高校を卒業して仕事に就いたら、周りの職員の方たちと協力しながら、一人でもたくさんの利用者さんを幸せにできるような、心に寄り添える介護福祉士になっていきたいです。

橋本 僕は利用者さんに安心感を与えることができ、笑顔を増やせるような介護福祉士になりたいです。祖父の介護を続けている祖母や両親に、もっと楽になってほしいので、今まで育ててもらった恩返しの方も含めて、これからも介護を手伝っていきたいです。



KAZUNORI
HASHIMOTO

橋本 和法さん
福祉科
3年生

後輩たちへエール

僕は野球部に所属していました。春休みも夏休みも実習があって忙しいけど、部活と勉強を両立することもできます。



CHIAKI
IIDA

飯田 千明さん
福祉科
3年生

後輩たちへエール

高校で介護福祉士の受験資格を取得できるのは、ここだけ。資格を取りたい人は、家族や先生に相談してみてください。

